

令和6年度 家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)						
副教材等	家庭科 55 デジタル+ (教育図書)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・人の一生と家族・家庭及び福祉、住生活、消費生活・環境について幅広く学習します。将来の自立に向け知識を習得し社会や生活への理解と考えを深めましょう。
- ・講義では教科書と資料集を使いプリント学習を行います。板書を写すだけでなく授業のポイントや気付いたことを記入することで評価が高くなります。
- ・体験学習やグループワークを取り入れ、より実践的な態度を養います。周りの人と協働しながら自分を表現し、他者の意見を聞くことで視野を広げる機会を設けます。

2 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働しよりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

※令和4年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章 生涯を見通す	1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	a:生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解することができる。 B:少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深めることができる。 c:現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。	定期テスト  提出物	定期テスト  提出物	振り返り
	第2章 人生をつくる	1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	a:家族・家庭の機能とそれを取り巻く社会環境の変化や課題について理解することができる。 b:男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見だし、課題を解決する力を身に付けることができる。 c:現在、将来の生活を工夫・創造し、実践しようとしている。	定期テスト  提出物	定期テスト  提出物	観察
2学期	第3章 子どもと共に育つ	1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	a:乳幼児の心身の発達や親の役割と保育環境について理解することができる。 b:現在の子どもの取り巻く状況や子育ての環境について課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 c:子どものための絵本製作などの実践活動に積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持つようとしている。	定期テスト  提出物	定期テスト  提出物	作品の制作  振り返り

※令和4年度以降入学生用

	第9章 経済生活を営む	1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活	a: 家庭経済・国民経済などのしくみや消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解することができる。契約についての知識を身に付けることができる。 b: 消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。 c: 生涯に起こりそうなリスクを想定しながら、経済計画について具体的に考えようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
3学期	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢者の自立を支える 4 これからの超高齢社会	a: 高齢者の心身の特徴や社会の課題について理解することができる。 b: 高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 c: 体験実習においては、積極的に参加し、高齢者の状況を把握しようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
	第5章 共に生き、共に支える	1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	a: 社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。 b: 支えあう社会とは何かを主体的に考え社会福祉についての考えをまとめることができる。 c: 社会福祉・社会保障のしくみや地域での支え合いのしくみについて意欲的に理解しようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
	第8章 住生活をつくる	1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	a: 住居の機能や気候・風土とのかかわりに関心を持ち、各地の気候・風土に適した住まいを理解している。 b: 快適な住空間や安全な住まいについて判断することができる。 c: 住まいの文化や機能、住空間の計画や住環境について関心をもち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的に取り組もうとする。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	404
------	-----

令和6年度 家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)						
副教材等	家庭科 55 資料集 (教育図書)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式と実習の両方の授業を行います。調理実習では、日常の食生活のなかで心がけるポイントを知り、それを実践できる力を養います。被服実習では、布の扱い方・ミシンの扱いや刺し子の技法について学び作品を製作します。</li> <li>・講義では教科書と資料集を使いプリント学習を行います。板書を写すだけでなく、授業のポイントや気付いたことを記入することで評価が高くなります。</li> <li>・体験学習やグループワークを取り入れ、より実践的な態度を養います。周りの人と協働しながら自分を表現し、他者の意見を聞くことで視野を広げる機会を設けます。</li> </ul>
---

2 学習の到達目標

<p>a : 生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 b : 生活課題を見出して課題を設定し、その解決に向け思考し、適切に判断することができる。 c : 主体的に生活課題を解決するとともに、自分や家庭・地域生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	人の一生と衣食などに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	人の一生と衣食などについて生活の充実向上を図るための課題を見出し、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と衣食などについて関心をもち、その充実向上をめざした主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第7章	1 被服の役割を考える 2 被服を入手する	a:衣生活に関心を持ち,人間と被服,気候と被服の関わりを考えようとしている。 b:各ライフステージに適した衣服の役割,適切な着装,衣生活の管理について考えを深めている。 c:衣生活に関心を持ち,正しい被服の着装を理解した上で,生活に活かそうとする姿勢がみられる。	定期テスト  提出物	定期テスト  提出物	振り返り
		4 被服をつくる	a:衣服製作実習を通して,材料の選択,基礎的なミシン縫い・手縫いなどの縫製技術を身につけ,エプロン・巾着袋・三角巾の製作ができる。 b:完成した作品に刺し子を施すことにより,自分らしさを表現することができる。 c:被服実習においては,制作活動に意欲的に,とりくもうとしている。	定期テスト  提出物  被服実習	定期テスト  提出物  被服実習	観察  振り返り
		3 被服を管理する	a:手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう,管理や手入れの工夫について理解する。 b:環境に配慮した衣生活について考え,実践できる力を身につけるために,被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 c:衣服の表示にはどのような種類があるのか,なぜついているのかを理解し,購入から洗濯などの管理に役立てようとする。	定期テスト  提出物	定期テスト  提出物	振り返り
		5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	a:現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために,日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り,日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。	定期テスト  提出物	定期テスト  提出物	振り返り

※令和4年度以降入学生用

			<p>b: 現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。</p> <p>c: 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分自身の衣生活を振り返ることができる。</p>			
2 学期	第 6 章	<p>1 食生活の課題について考える</p> <p>2 食事と栄養・食品</p> <p>3 食品の選択と安全</p>	<p>a: よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。</p> <p>b: 食品成分表を活用して栄養計算し、食生活の問題点を考えようとしている。食品表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。食品を見分け、よりよい選択ができるようにする。</p> <p>c: 自分自身の食生活について関心をもつとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。</p>	<p>定期テスト</p> <p>提出物</p>	<p>定期テスト</p> <p>提出物</p>	振り返り
		<p>4 生涯の健康を見通した食事計画</p>	<p>a: 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。</p> <p>b: 食事摂取基準や食品群別摂取量の目安について、家族や自分の食生活と関連させて考え、食生活の課題を調査してまとめたり、発表している。</p> <p>c: 普段の食事に興味を持ち、家族や自分自身にとって栄養バランスのよい献立について考えることができる。</p>	<p>定期テスト</p> <p>提出物</p>	<p>定期テスト</p> <p>提出物</p>	振り返り
		<p>5 調理の基礎</p>	<p>a: 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。配膳やマナーに関心を持つ。”</p> <p>b: 栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら、家族</p>	<p>定期テスト</p> <p>提出物</p> <p>調理実習</p>	<p>定期テスト</p> <p>提出物</p> <p>調理実習</p>	観察

※令和4年度以降入学生用

			の献立を作成することができる。 c: 調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。			振り返り
3 学期	第 6 章	6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	a: 郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。 b: 自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 c: 食生活全般に関心を持ち、これからの食生活や食を取り巻く環境の改善に役立てようとする。	定期テ スト  提出物	定期テ スト  提出物	振り返り

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 家庭科

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	フードデザイン「Food Changes Life」 (教育図書)						
副教材等	フードデザイン ワークノート ()						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

食生活に関心をもち、積極的に取り組みましょう。

- ・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身につけます。
- ・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。
- ・食生活を中心とする QOL を向上させましょう。

2 学習の到達目標

食文化や食品衛生、調理、栄養などの食に関する知識と技術全般を習得させ、食生活の充実・向上を図る能力と態度を育てる。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	食生活に関する基礎的な知識を身につけている。 栄養素や各種食品の特徴をよく知り、栄養計算で摂取栄養の内容を把握できる。	食生活の充実向上を図るための課題を見いだして、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	栄養や食品分野の学習に自主的に取り組み、その結果を提出できる形にできること。 調理実習での班活動で協力しながら、調理の完成を目指して能率よく作業に参加し、期待される行動を自らとる努力が見えること。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	健康と食生活	食事の役割を理解し、家族や仲間との食事の意味を考える。 食生活の変化と現代の課題・日本型食生活の特徴を理解する。 調理実習	a: 日本の食生についての知識を身につけている。 b: 自分の食生活を客観視し、課題を見つける。 c: 現代の食生活の問題点を主体的にとらえ、改善の方法を模索する。	提出物  調理実習	提出物  調理実習	振り返り  調理実習
	栄養素と食品	栄養素と消化・吸収について正しい理解をする。 各種栄養素の働きを理解する。 調理実習	a: 栄養素について正しい知識を身につけている。 b: 自分の食生活から必要な栄養素の過不足を考える姿勢がある。 c: 自身の食生活の問題点を主体的にとらえ、改善の方法を模索する。	提出物  定期考査  調理実習	提出物  定期考査  調理実習	振り返り  調理実習
2学期	栄養素と食品	各種栄養素の働きを理解する。 各食品の特徴と調理性を理解する。 調理実習	a: 栄養素について正しい知識を身につけている。 b: 自分の食生活から食品摂取の傾向を知り、未知の食品への意欲を持つ。 c: 自分の食生活から必要な栄養素の過不足を考える姿勢がある。	提出物  調理実習	提出物  調理実習	振り返り  調理実習
	食品の選択と取り扱い	何をどれだけ食べることが健康なのかを知る。 食の安全を理解する。 適切な調理操作と調理器具を知る。 調理実習	a: 栄養計算や食品選び、調理方法についての正しい知識を身につけている。 b: 正しい食品選び、調理方法について自身の生活の中に取り入れる意欲を持つ。 c: 自身の食生活を改善する意欲を持つ。	提出物  定期考査  調理実習	提出物  定期考査  調理実習	振り返り  調理実習
3学期	各国料理とコーディネート	日本料理・中国料理・西洋料理の食文化とマナーについてその特徴を理解する。 調理実習	a: 世界の食文化に興味を持ち、正しい知識を身につけている。 b: 自分の食生活を客観視し、課題を見つける。 c: :自身のの食生活の問題点を主体的にとらえ、改善の方法を模索する。	提出物  定期考査  調理実習	提出物  定期考査  調理実習	振り返り  調理実習

※令和4年度以降入学生用

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度